

アジアの時代 鹿児島県の可能

アジアへのゲートウェイ(玄関口) 鹿児島

我が国の繁栄、鹿児島県の繁栄は、今後、アジアの国々との連携なしには考えられません。このため、本県は、急成長を続ける中国をはじめとしたアジア諸国と密接な関係を結ぶことが重要となっています。

中国沿岸部の人口は約3億人です。特に、今後、大幅な増加が見込まれる中間所得層のエネルギーを取り込み、本県の発展を図ることが求められています。

その東アジアの中国、韓国の黄海沿岸および九州、台湾を含めた地域は、環黄海地域と呼ばれ、この地域の世界に占める割合は、人口で5.9%、国内総生産(GDP)で5.7%となっており、今後も発展が見込まれています。

本県の将来は、アジアとともにあるといえます。



発展著しい上海浦東(プードン)開発地区

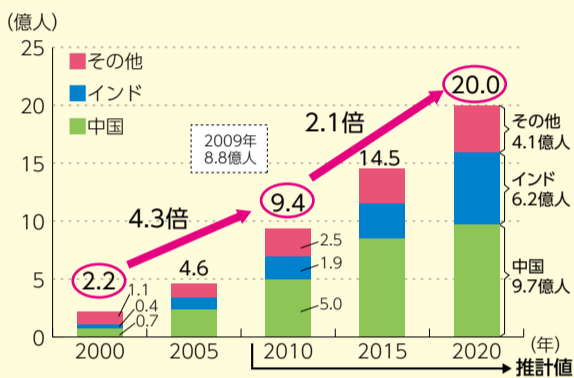


環黄海地域の基礎データ

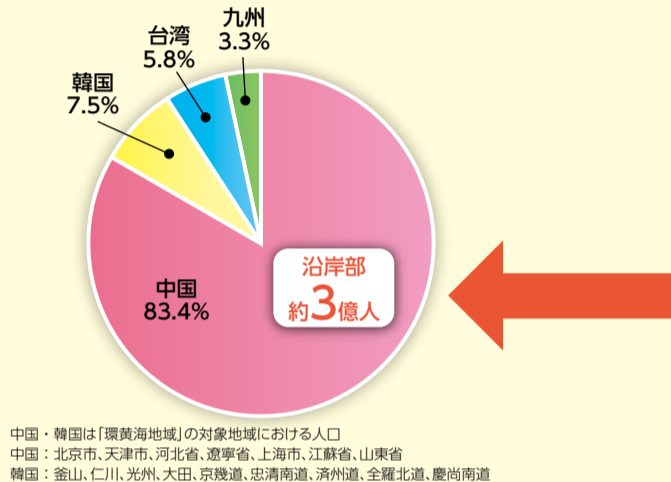
	環黄海地域 (台湾含む)	世界シェア (%)
人口(百万人)	401	5.9%
GDP(億ドル)	32,897	5.7%
貿易額(億ドル)	30,157	13.0%

出典：九州経済産業局「九州経済国際化データブック2011」
台湾はジェトロ「国・地域別情報」

アジアの中間層の推移



国・地域別・人口構成比

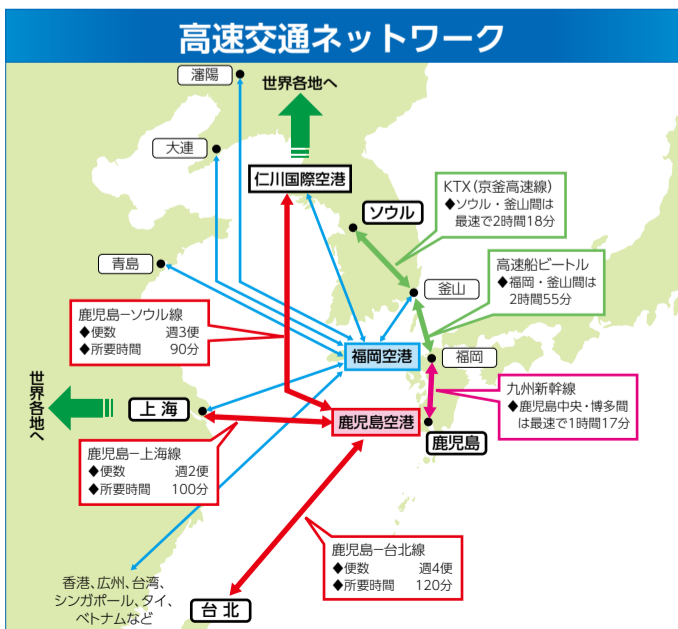


Q どうして上海線が重要なのですか？

A 鹿児島県は、アジアの主要都市であるソウル、上海、台北の三大都市と直接結ばれ、環黄海地域をつなぐ高速交通ネットワークの一翼を担っています。

中でも、鹿児島-上海線の存在は、成長する中国経済の波及効果の本県にもたらし、本県の発展可能性を大いに高めることとなるため、その維持は本県の成長発展に不可欠です。

また、本年5月に九州地域戦略会議で決定された「次期九州観光戦略」においては、中国からの入国者数を2023年には約304万人とする目標を掲げており、この1割に当たる約30万人程度の中国人観光客を本県へ誘致することを目標としています。10年後にこの中国人観光客を鹿児島に招き入れるためにも、今、上海線が廃止されることは避けなければなりません。



Q 上海線の利用状況はどうなっているのですか？

A 平成14年の就航以来、搭乗率は、おおむね50%以上を維持しており、一時は週4便に増便されるなど、約10年間に渡り安定的に運航され、約17万人の方に利用されてきました。

しかし、平成24年9月以降、尖閣諸島の問題や大気汚染の影響等を受けて利用状況が低迷し、平成25年4月から8月までの44便のうち13便が欠航、5月は搭乗率が32.2%にとどまるなど、危機的状況になりました。



中国東方航空



歴史的建築物が立ち並ぶ外灘(バンド)地区

搭乗者数・搭乗率の推移

